

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>・信越線及び新潟県内の鉄道に関する研究。今年、とりわけ県内の勾配線区について、建設の歴史を鉄道技術との関係で考察した。</p>	<p>来年度中には論文にまとめられるよう、資料と研究発表を重ねているところである。</p>	<p>2019年11月9日・くびき野カレッジ第19期講義の一環として、「マレー、ループ、スイッチバック——なぜ鉄道は勾配が苦手なのか？」を発表</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>(1) 『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』(2014年度～2018年度 科学研究費)のまとめとして、2018年度末までに報告書を刊行した。</p> <p>(2) 上記の美学研究からの派生研究として、ヘーゲルの聖母子像に関する見解とリプロダクションを結びつける研究を行った。</p> <p>(3) 1820年に殺害されたドイツ・ロマン派の画家、キューゲルゲンの研究。</p>	<p>(1)の報告書は500頁に渡る大部のものとなった。DVD付録付き。</p> <p>(2)は、社会思想史学会のリプロダクションに関するセッションで報告した。</p> <p>(3)を調査するために、18世紀末から19世紀初頭のベルリンとドレスデンの絵画アカデミーにおける展覧会プログラムを調査している。成果は、刊行中のヘーゲル全集に収録予定の、ヘーゲルによるキューゲルゲンに関する手記(1820)に反映される予定。</p>	<p>(1a)『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』2014年度～2018年度 科学研究費 基盤研究(B) 課題番号：26284020 研究成果報告書(2019年3月29日刊)総ページ数 p. I-VI, p1-492. 添付 DVD1枚</p> <p>(1b)「ヘーゲルの見た絵画 19世紀初頭における絵画作品の〈移動〉とヘーゲル『美学講義』『法政哲学』第15号 p13-24。2019年3月30日刊</p> <p>(2) 社会思想史学会セッション F「社会思想におけるリプロダクション」2019年10月27日(於：甲南大学)：「ヘーゲルと二人のマリア」</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚 正英

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 ★地域史・地域文化</p>	<p>以下のフィールド調査・展示会を行った。 ★天崇寺境内の笏谷石調査、上越市寺町2丁目、2019.07.14 ★正田直道編「追思有感」(明治35年)展示説明会、ますやdeお話し会①、2019.06.07.</p>	<p>★頸城野の旧名「美守(ひだもり)」と「五十君(いぎみ)」の古代における読み仮名と意味、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Vol.4/No.1、2019.05 ★地域社会活性化促進型文化教育事业報告—NPO 法人頸城野郷土資料室を事例に一、東京電機大学総合文化研究、2019.12. (予定)</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p>	<p>以下のフィールド調査・講演を行った。 ★埼玉県さいたま市の氷川神社・調神社の茅輪くぐり神事見学、2019.06.30 ★〔講演〕アミルカル・カブラルーアフリカ革命のアウトラ、「多摩美術大学美術館白石顕二アフリカコレクションエターナル・アフリカ*森と都市と革命—アミルカル・カブラルの革命思想とジョージ・リランガの芸術—」展・記念講演、2019.07.27.</p>	<p>★ミケランジェロの大理石—〔理想の身体〕をめぐって—、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Forum39、2019.01 ★曳き舟のルーツを探る、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Forum42、2019.03 ★『記・紀』に登場する「アシカビ」の物質性、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Forum46、2019.05 ★〔講義〕先史の精神あるいはプラトンの相対化、城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Forum53、2019.11</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤 太輔

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 くびき文化を含む「裏日本」文化の研究</p>	<p>2019 年 4 月～5 月、秋田県内のフィールドワークを行った。具体的には、古四王神社、八龍神社、東湖八坂神社、不動院などである。それぞれに伝わる伝承や由来を調査し、秋田―越―出雲という三者に共通する要素を抽出し比較した (e.g. 龍神伝説、一つ仮名弁、越 (古四、古志) という名称、鶏卵の神聖視・禁忌、意富氏)。</p>	<p>【公開講座】 くびき野カレッジ天地他人「裏日本」文化 13 一秋田・出雲・越：東北・出雲説から一 (2019 年 12 月 14 日)</p> <p>【連載】 ・web 連載 (月刊)：雑誌『ロゴスドン』「裏日本」文化、第 49 回 (2019 年 4 月)～第 57 回 (2019 年 12 月)。 http://www.nu-su.com/seimei.html 第 49 回：殺牛儀礼④、第 50 回：鶏の神聖視①、第 51 回：鶏の神聖視②、第 52 回：鶏の神聖視③、第 53 回：事代主命の謎、第 54 回：隠岐相撲、第 55 回：おんぼら、第 56 回：ばんじまして、第 57 回：「裏日本」の夕暮れ時</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 南方熊楠の夢と粘菌の研究</p>	<p>秋田公立美術大学において、南方熊楠の夢の探求方法お</p>	<p>【講演・発表】</p>

	<p>よび粘菌観察の方法について、文献を中心に研究し、それらがアートにおける思考と実践にどう接続できるかを研究した。特に熊楠が、直線的な時間（過去—現在—未来という時間の矢）を無化するような、いわば永遠的一瞬を感得していたことを、彼の言説から見出した。それらは、アートの現場における、いわゆるフロー状態あるいはゾーン体験つまりクリエイティブな活動のプロセスを言語化することに有効であるという仮定の下、研究を続けている。</p>	<p>・「粘菌と南方熊楠」(Klub Zukunft 第 159 回例会 2019 年 11 月)</p> <p>【その他】</p> <p>・第 13 回湯浅泰雄著作賞受賞 (『南方熊楠の見た夢—パサージュに立つ者—』勉誠出版 2014 年) (人体科学会 2019 年 12 月)</p> <p>・「光と闇、自己と非自己の同居」(石塚源太『多相皮膜』リーフレット 2019 年 7 月)</p>
--	---	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木朋興

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	特になし	特になし
【くびき文化に関係しない研究】 民俗学関連	埼玉県秩父地方の札所と石仏に関するフィールドワーク 秩父在住のアーティスト笹久保伸氏への聞き取り調査	・『『悪魔のロベール』の悪魔表象—カトリックとプロテスタントの間に』, in 『《悪魔のロベール》とパリ・オペラ座 —19 世紀グランド・オペラ研究』, 上智大学出版, 2019.

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>くびきの文化関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 直江津プロジェクト関係 	<p>1) 直江津プロジェクト（東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 31 年第一回会合（2019 年 3 月 16 日）：前年度活動報告と新年度の活動方針に関する打ち合わせ。 令和元年第二回会合（12 月 14 日）：くびき野カレッジー天地びとーでの発表についての報告 <p>2) くびき野カレッジ（資料調査等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料収集（4 月 5 日）：北陸道調査＝名神高速道路、北陸自動車道、上信越自動車道、関越自動車道 資料収集（9 月 13-15 日）：東山道・北陸道連絡路調査＝名神高速道路、中央自動車道、長野自動車道、上信越自動車道、北陸自動車道、関越自動車道 	<p>[報告] くびき野カレッジー天地びとー第 2 講 直江津往還補説 9－高田直江津全国往来：頸城の官道と高速道路 1－」（5 月 11 日）</p> <p>[報告] くびき野カレッジー天地びとー第 2 講 直江津往還補説 10－高田直江津全国往来：頸城の官道と高速道路 2－」（10 月 12 日）</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>歴史学関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 近現代史関係 ロシア、ソ連史関係 国際関係史関係 	<ul style="list-style-type: none"> 日本西洋史学会参加（静岡） 近現代史研究会開催 現代史研究会シンポジウム「ベルリンの壁崩壊 30 年記念冷戦後の歴史学」 工業化における製鉄所関連の資料収集（北九州市八幡） 津田塾大学国際関係学科 50 周年シンポジウム 	

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野俊和

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】		
【くびき文化に関係しない研究】 雑誌紹介とコメント 新刊書紹介とコメント	現在学研究会編『現在学研究』第1号 八木透『日本の民俗信仰を知るための30章』淡交社刊	「新創刊誌紹介：現在学研究会編『現在学研究』」（頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要フォーラム 38） 「新刊書紹介：八木透『日本の民俗信仰を知るための30章』」（頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要フォーラム 50）

<p>民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究（平成 28～30 年度科学研究費助成事業 研究代表者：聖徳大学准教授・石本敏也）</p>	<p>研究終了</p>	<p>「巡礼巡拝記の役柄分析 劇場宗教としての四国遍路」執筆 同研究報告書掲載（2019 年 3 月刊）</p>
<p>四国遍路習俗の総合的性格に関する検討</p>	<p>四国 4 県によって設置される、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会「普遍的価値の証明」部会における研究会に出席し、検討と議論に参加した。</p>	<p>以下の日程で会議実施（於・香川県庁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年 6 月 7 日 ・ 2019 年 11 月 13 日
<p>柳田国男『明治大正世相篇』の読解・検討</p>	<p>講義案の作成・実施</p>	<p>「くびき野カレッジ」にて講義実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年 1 月 27 日 ・ 2019 年 8 月 10 日

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧 (平成 31 年 1 月 1 日～令和元年 12 月 31 日)

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 『直江津往還』の全国展開の試み</p>	<p>1) 今年度も、春と年末に「直江津プロジェクト」の懇親を図りながら、メンバー同士で研究情報の交換を行った。 2) 札幌市のエドウィン・ダン記念館を通して、直江津小学校のオリジナルシャツを購入し、その情報を頸城野郷土資料室内でも共有した。 3) 横浜出身で今春から上越に暮らす上越教育大学大学院生を連れて、居多ヶ浜記念堂、五智国分寺、林泉寺、直江津港、赤煉瓦の異人館跡、ライオン像のある館、直江津大神宮、直江津駅前通り商店街を案内して回りながら、今後、県外から来る若い世代に、どのように直江津の歴史に触れてもらうのが良いのかをあらためて考えた。</p>	
<p>【くびき文化に関係しない研究】 1) ロックとモンテニユの比較研究</p>		<p>【学術論文】 「ロック哲学における「伝承」の問題—モンテニユの『エッセー』と比較して—」、『総合社会科学』(総合社会科学会編)(通巻 31 号)、17-31 頁、2019 年 3 月。</p>

<p>2) ロックと『論理学、別名思考の技法』の比較研究</p> <p>3) 機械翻訳と未来社会にかかわる哲学的研究</p>	<p>【学術論文】</p> <p>『人間知性論』初版における「観念連合」の萌芽—『論理学、別名思考の技法』の「付帯的観念」と比較して—、『イギリス理想主義研究年報』（日本イギリス理想主義学会編）特集号（近刊）に掲載予定。</p> <p>『機械翻訳と未来社会』については、社会評論社のブログに以下の紹介記事も執筆した（いずれも共著）。</p> <p>https://shahyo.sakura.ne.jp/wp/?p=6607</p> <p>https://shahyo.sakura.ne.jp/wp/?p=7304</p>	<p>【著書】</p> <p>『機械翻訳と未来社会：言語の壁はなくなるのか』（瀧田寧・西島佑編、社会評論社、2019年7月）。</p> <p>担当範囲：</p> <p>〔座談一〕＜14-25 頁、西島佑・瀬上和典・羽成拓史との共著＞、〔座談二〕＜200-207 頁、西島佑・瀬上和典・羽成拓史との共著＞、エピソード「コミュニケーションの入口としての機械翻訳」＜208-220 頁、単著＞、「あとがき」＜221-222 頁、単著＞、その他：編集作業全般。</p>
--	---	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 田村 敬

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	新潟県及び頸城野地域における、近世・近代史、民俗関連の文献調査や査読の実施	特になし
【くびき文化に関係しない研究】 1 埼玉県蓮田市の文化財に関する調査研究 2 主に埼玉地域を中心に関東地域における近世農村史の調査研究（特に治水・利水、宗教史・民間信仰を中心） 3 近世・近代の地方芝居の調査研究	1 については、蓮田市で行われた3月と10月の文化財保護審議委員会に出席し、当該地域の文化財に関する討議を実施。 2、3については、関連文献の査読及び埼玉県立文書館にて県内の文書の閲覧および解読・検証等の実施。	特になし

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 小川未明と三島由紀夫の〈パトリオフィル〉</p>	<p>石塚正英氏の「童話作家小川未明の愛郷心（パトリオフィル）」に 触発され未明の思想形成を模索する一方で、前年度に引き続き、未 明と三島の関係について探求を深めている。「年譜」によれば、三 島は昭和六年、学習院初等科に入学した頃より未明を愛読してお り、『決定版三島由紀夫全集 26』所収の「童話三昧」で未明の名を あげている。幼いころの童話経験が三島に多大なる影響を与えて いるのではないか。それは同時に、二人の広い意味での〈パトリオ フィル〉の位相＝〈出発点〉を検討するとことを通じて、作品形成 への二人の“重なり”と“異なり”を示すことができると考える。</p>	
<p>【くびき文化に関係しない研究】 「生産性」の 2010 年代をめぐる社会文化 思想史的研究——“事件”のあとに私たち は人間の尊厳を語りうるか？</p>	<p>本研究は、フクシマ（2011 年）とサガミハラ（2016 年）の〈はざま〉で開 始された「新型出生前診断」（2013 年）をめぐる生・権力／構造的暴力の 磁場に光をあてる。二つの事件の負荷がはからずも炙り出したものは私た ちの社会空間にある「内なる優生思想」であり、「新型」はこれを助長する ものである。2010 年代を「生産性」というキーワードのうちに読解し二つ の事件を地続きの関係にあるものとして検討したうえで、旧来人間存在の 基礎単位とされてきた近代的な「個人 individual」という単位に懐疑のま なざしをむけ資本制システム（＝権力）に取り込まれつつもそれを“内破” する〈わたし〉の“構え”の再構成を模索せんとするものである。</p>	<p>【報告】・「フクシマとサガミハラが問いかけるもの」関東医 学哲学・倫理学会 6 月例会（於）東洋大学 2019 年 6 月 1 日 ・「フクシマとサガミハラが投げかけるもの——『生産性』 の 2010 年代、事件後に人間の尊厳について語るということ」 立正大学哲学学会 2019 年度秋冬大会（於）立正大学 2019 年 12 月 14 日 【書評】・清真人著『フロムと神秘主義』（藤原書店、2018 年 11 月）季論 21 編集委員会編『季論 21』第 44 号（本の泉社、 2019 年 4 月 20 日）、pp.225-229</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 茂木謙之介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 地域社会と天皇制に関する研究	学術論文 2 報、単行本 1 冊、口頭報告 2 件の成果を得た。	<ul style="list-style-type: none">・単著「狂乱と共犯—令和改元におけるメディア表象をめぐって」(『歴史評論』(835)、pp. 38-49、2019 年 11 月)・単著「改元の暴くもの—大正末～昭和初期における女性皇族の表象をめぐって—」(『足利大学研究集録』(54)、pp. 84-104、2019 年 3 月)・単著『表象天皇制論講義 皇族・地域社会・メディア』(白澤社、2019 年 6 月)・口頭報告「改元と皇室」(足利大学教養講座 2019 年 3 月 7 日)・コメント「民俗儀礼としての大嘗祭」(くびき野カレッジ特別講座大嘗祭 2019 年 10 月 5 日)
【くびき文化に関係しない研究】 1980 年代メディアと幻想文学・怪異怪談に関する研究	2 回の口頭報告を行った。	<ul style="list-style-type: none">・口頭報告「“オカルト天皇(制)”論序説—1980 年代雑誌『ムー』の分析から—」(日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会 合同

		<p>国際研究集会、2019年11月24日)</p> <p>・口頭報告「〈幻想〉を編む ―雑誌『幻想文学』における編集思想をめぐって―」(日本近代文学会秋季大会、2019年10月27日)</p>
--	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山田 彩加

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 ・上越地域とキリスト教との関係</p>	<p>明治政府によるキリスト教解禁よりも前から、教派を問わず、多くの外国人宣教師が来日し、日本人と関わりを持っていた。彼らはキリスト教そのものだけでなく、外国語（英語）、医学、女性に対する教育、障がい者への教育などをもたらした。新潟県下の上越地域にもキリスト教と日本人との関わりの歴史があり、キリスト教に触れた日本人によって築かれた業績が残っている。</p> <p>今回は、近代の新潟県にゆかりのある人物、また、新潟県下に残る聖書などの印刷物にフォーカスした。</p> <p>→「発表状況」参照</p>	<p>ながおか史遊会歴史トーク 2019年6月29日 「新潟県下のキリスト教の歴史について考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大森隆碩（高田盲学校の起源となる私立訓蒙学校の初代校長）とアメリカ長老派教会宣教師・医師ヘボンとの関係 ●糸魚川出身の基督者・松山高吉 ●上越市福祉交流プラザ所蔵凸字聖書の紹介 <p>※本発表を受けて、歴史トーク主催者である、ながおか史遊会・湯本泰隆氏より、以下の論考が発表されている。</p> <p>湯本泰隆 2019「桜と十字架 ～国学者としての松山高吉 試論～」 （『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』フォーラム）</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 なし</p>		

NPO 法人頸城野郷土資料室
2019 年度学術研究概要報告

研究者氏名 湯本 泰隆

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に係る研究】		
<p>【くびき文化に係らない研究】</p> <p>① 県央地域における板碑の現状調査</p> <p>② 学校史・学校文化財に関する調査・研究</p>	<p>① 2018 年同様に県央地域に点在している板碑の所在を確認し、現状の様子を把握することを目的としていた。今年には三条市内に現存している板碑の状況を把握した。2019 年以降は燕の板碑の現状について確認とともに地元の人への啓発を進めていく。</p> <p>② 2018 年同様、長岡市日越小学校荒川基金の設立契機となった人物・荒川次郎吉氏の生涯を漫画にし、誰もが気軽に彼の事績について知ることができるようにした。また彼の動向が確認できる、新史料 2 点の存在が確認できた。</p>	<p>・主な執筆</p> <p>「城内稲荷の芋引伝説」『長岡郷土史 第 56 号』3 月</p> <p>「次世代新聞遊び「まわしよみ新聞」が地域史教育に持つ可能性」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Forum41 3 月 1 日</p> <p>「長岡市上除にある筆子塚の意義に就いて」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Forum43 4 月 19 日</p> <p>「城の設計を人間に教える狐の話」『妖怪文化 第 2 号』5 月</p> <p>「下大浦延命寺の板碑」『板碑を読む』(越後ジャーナル 6 月 8 日号)</p> <p>『荒川次郎物語～故郷(ふるさと)に夢を託した偉人(ひと)～』6 月 10 日(共著)</p> <p>「桜と十字架 ～国学者としての松山高吉 試論～」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Forum49 7 月 2 日</p> <p>「井栗、極楽寺の板碑」『板碑を読む』(越後ジャーナル 7 月 20 日号)</p> <p>・主な講演・ワークショップなど</p> <p>3 月 14 日 くびきのカレッジ 「まわしよみ新聞をつくろう in KFA」</p> <p>5 月 15 日 長岡市立東中学校 「東中周辺の歴史について」</p>

